

## ★2018年度 療考会の活動報告★

2018年度の活動内容を振り返ってみようと思います。  
活動方針には2つの大きな柱があり、双方において行政の動きが活発になってきました。



### 《2018年度の主なロビー活動》

#### 1. あゆみ学園の老朽化・狭あい化に伴う建て替えに関する要望書を提出

昭和48年に開設した南区のあゆみ学園は、老朽化・狭あい化が進んでおり、南部療育センターとして新たに建て替えられないかと要望を続けてきました。

【年間活動】 ■南区の市議会議員に相談

■あゆみ学園の保護者に設備面等で困っていることについてアンケート実施

■福岡市長宛に建て替えに関する要望書を提出

※福岡市は、「障がい児の増加や療育ニーズを踏まえつつ、相談・診断・療育の各機能のさらなる強化や、最適な施設配置など、総合的に検討していく」などと回答。

#### 2. 医療的ケア児の受け皿についての要望

知的にも肢体にも問題はないが、痰の吸引など医療的なケアが必要なために幼稚園にも保育園にも療育センターにも行けない子どもに、保育の場を、と訴えてきました。

【年間活動】 ■養護学校教諭の経歴を持つ市議会議員に相談

■進路の会の陳情にて医療的ケア児に対する受け皿の確保について提案

■障がい児保育検討専門委員会にて実態を発表

※福岡市は今年度から医療的ケア児受け入れのモデル事業を4園に増やし（2018年度は千代保育所1か所のみ）看護師を配置するなどして対応。

※また、講演会・学習会・茶話会で保護者の学習や交流の場を設け、参加した人からは「いい経験になった」などと感謝の声が聞かれました。

### 《2018年度の講演会等》

#### 1. 柚の木福祉会の白谷憲生氏による講演会

「レストランゆずのき」などを運営する白谷氏により、障がいのある人の社会自立についてお話を聞きました。褒めることから始めること、誰にとっても基本の「挨拶」をきちんとすることが大事など、当たり前のことのはずなのにハッとさせられるお話で、1時間半の講演時間があっという間に過ぎました。第2弾を期待する声が多数寄せられました。

#### 2. 自身も障がいのある藤田良氏による学習会

幼少期に高熱による脳性麻痺で身体に障がいを持つようになった藤田氏が、自身のボランティア活動などを通して、障がい者だからと言ってできないことはない、と語ってくださいました。参加した保護者からは、「心に響く学習会だった」「色々な可能性を健常児と同じように考えていこうと思った」などの声が聞かれました。

#### 3. 市内7園の保護者や個人会員による茶話会

参加者からは、「違う園の方とお話しできてすぐくためになった」「言葉が出ない子どもとのコミュニケーションの方法など、実行できそうなアドバイスをいただいた」「勉強にもなって楽しい時間でした」などのお声をいただきました。